



資料3-1 林座長御提出資料

2030年までに全国規模の効果的な 広域応援を可能にする災害対応の 基本的な仕組みを構築する

京都大学防災研究所

林 春男



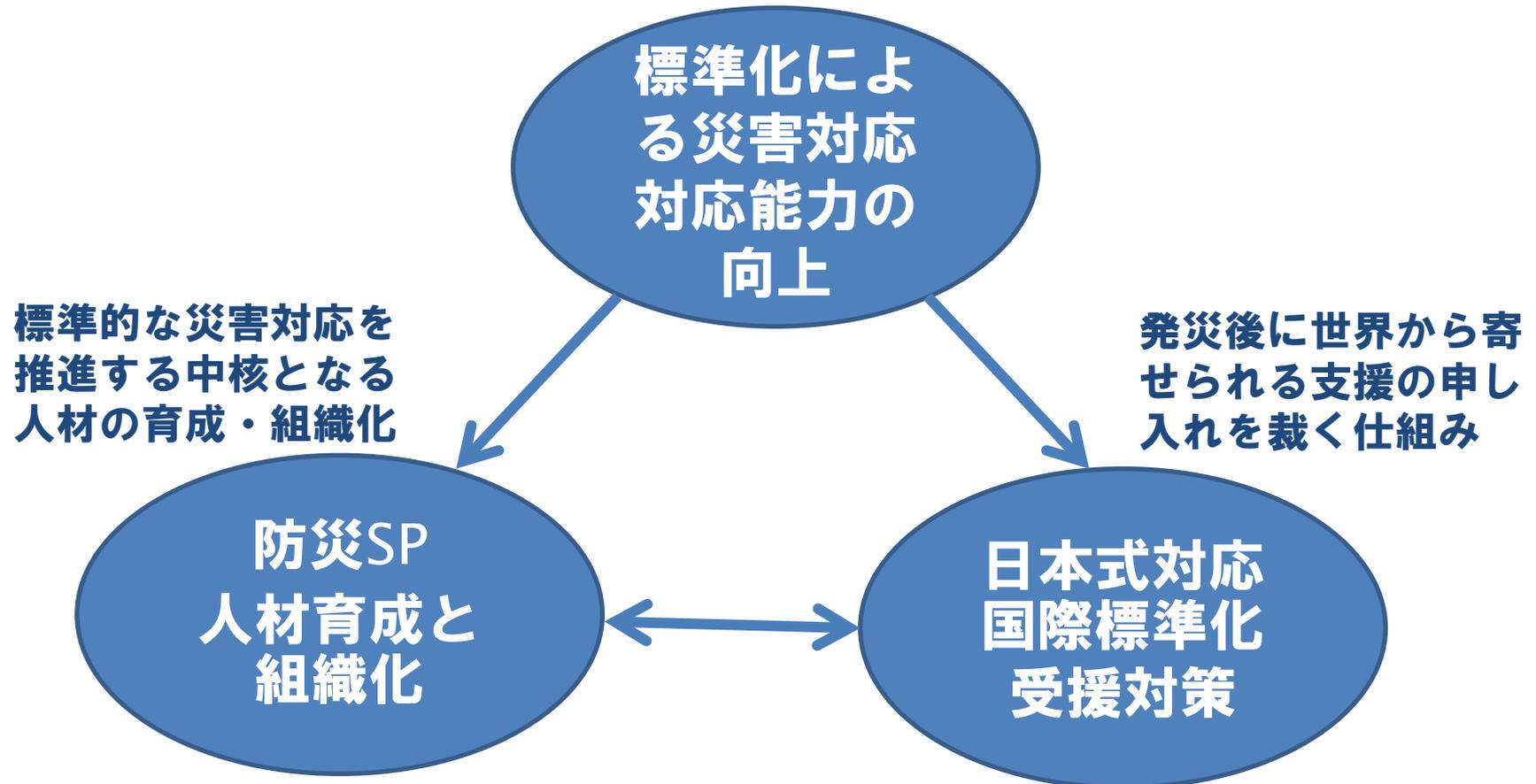
災害対応標準の戦略目標

- **明確な目的を設定して、戦略的に推進すべき**
 - いつまでに： 2030南海トラフ、2023関東地震100周年、2020オリンピック・パラリンピック
 - 何を： 防災基本計画の高度化
 - どの組織が： 府省庁・都道府県・区市町村+
 - 合意して文書化する
- **世界に通用する科学的・合理的な手法にもとづき**
 - 関係者による振り返り（After Action Review：AAR）
 - プロジェクトマネジメントの標準的な計画記述様式
（Work Breakdown Structure: WBS）
 - 継続的改善（PDCA）



2030年までに全国的な広域応援を可能にする災害対応の基本的仕組みの構築

どの組織が、何を、何時するべきかについての合意文書



3つの検討課題

- ・ **迅速的確な状況認識の統一の実現**
 - 情報処理・情報共有のあり方の標準化
 - ・ 防災関係機関のためのWeb型災害対応支援情報システム
- ・ **効果的な災害対応オペレーションの実現**
 - 防災基本計画に基づく災害対策の質の向上
 - ・ 米国ESFを参考にして、災害対応業務の標準プログラム化を行う方法論の確立
- ・ **連携した災害対応マネジメントの実現**
 - 組織間連携を可能にするための研修・訓練プログラムの充実
 - ・ JISQ22320を核とした指揮統制・協力連携体制の構築

